



三郷市立鷹野小学校学校だより

たかの

TAKANO

令和4年度 3月号

発行日 3月1日(水)

学校教育目標

「よく遊び よく学ぶ 心豊かな子」

進んで学ぶ子 助け合う子 健康な子

	男子	女子	計		男子	女子	計
1年	22	24	46	4年	12	29	41
2年	19	30	49	5年	40	29	69
3年	20	22	42	6年	22	27	49
			ひばり		15	10	25

3月1日現在の児童数 321名



人と人とのつながりに感謝

三郷市立鷹野小学校長 西村 美紀

毎朝、そして1年生の下校の際に、子供たちを見守ってくださる見守り隊の方、植木や畑の世話をしてくださる環境ボランティアの方、読み聞かせボランティア「お話クレヨン」の皆さん、地域を知る学習にご協力いただいたスーパーや地区センター、ミカン狩りや田植え体験等も行うことができました。空き缶や資源回収、通学班編成、運動会等の受付や校外学習の見守り、学習ボランティア等、サポートをたくさんしてくださった保護者の皆様。1年間、本当にありがとうございました。



上の写真は、先日実施された三郷市学校応援団実践報告会で、発表した本校の学校応援団の活動の一部です。様々な活動の様子と一緒に、インタビューや子供の感想を動画で発表させていただきました。オンライン発表が終わった後、他校の先生方から、地域の方々のご協力の様子にうらやましいという声をいただきました。発表の中でも触れましたが、鷹野小学校のとりまく地域の皆様がすばらしいと思うのは、見守りだけではないところです。登校をしぶっている子供が居れば、話を聞いて励ましてくれたり、子供と一緒に作業の中で丁寧に教えてくれたりと、「子供は地域で育てる」という言葉が実感できる活動であふれています。

学校で教える学習内容は、子供たち一人一人の経験があって、初めて紙の上のものが、「知識」として結びつきます。経験は、一人ではできません。学校だけでも足りません。家庭、地域、周囲の方々の支えとつながりがあってこそできます。

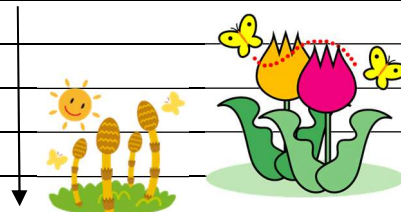
その鷹野小学校は、令和5年度に50周年を迎えます。ここまで、支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

3月の主な行事予定

学校だよりカラー版は、ホームページでご覧いただけます
<http://www.edu.city.misato.lg.jp/takanosho/>



1	水	登校指導 委員会	17	金	短縮 10 分日課 給食終了日
2	木		18	土	
3	金	S C 来校 (午後)	19	日	
4	土		20	月	安全点検 短縮 3 時間 (11:50 下校)
5	日		21	火	祝・春分の日
6	月	卒業式練習開始	22	水	歓送会 卒業式準備清掃 短縮 3 時間 (11:50 下校)
7	火	全校集会	23	木	第 49 回卒業証書授与式 1~4 年臨時休業日
8	水	クラブ	24	金	修了式 6 年臨時休業日 短縮 3 時間 (11:50 下校)
9	木	教材費集金日	25	土	
10	金	感謝の集い	26	日	
11	土		27	月	学年末休業日
12	日		28	火	
13	月	短縮 10 分日課 通学班会議 (6 校時)	29	水	
14	火	児童集会 短縮 10 分日課	30	木	
15	水	短縮 10 分日課	31	金	
16	木	通常日課 卒業式予行			



自転車ヘルメット着用の努力義務化について

道路交通法の一部改正 (令和 5 年 4 月 1 日施行) により、自転車ヘルメットの着用が努力義務となります。

(全ての自転車利用者が対象)

児童・生徒はもとより、保護者の皆様やご家族様につきましても、「命を守る」自転車ヘルメットの着用に努めていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

ヘルメットは、SGマークなどの安全性を示すマークの付いたものを選びましょう。

自転車の安全利用に関しては、埼玉県警察ホームページをご覧ください。

朝の立哨指導について

保護者の皆様、交通指導員の方、見守りボランティアの皆様には、毎朝児童の登校を見守ってくださり、ありがとうございます。

さて、現在児童の登校時や 1 年生の下校時の見守りが十分にできていない地区がございます。

つきましては、朝の立哨や 1 年生の下校時の見守りをしていただける方を募集しています。ご協力をいただける方がいらっしゃいましたら、鷹野小 教頭 松本までご連絡ください。

コース：白コース (鷹野 2 丁目・3 丁目西)

緑コース (鷹野東・高州東 1~3 丁目)

春季休業について

令和 4 年度も、残すところ 1 か月となりました。コロナ禍にある中、子どもたちは、様々な活動に挑戦し、大きな力をつけることができました。これも、保護者の皆様や地域の皆様のご理解とご協力のおかげと思っています。ありがとうございます。まもなく、6 年生は 6 年間の小学校の教育課程を終え、卒業を迎えます。また、在校生は当該学年の終了を迎え、4 月には 1 つ進級をします。

春休みは、4 月からの進級・進学的心と体の準備を整えておくことが大切です。そのためにも規則正しい生活を心がけ、新年度に向けて過ごしてください。

春休み期間 3 月 25 日 (土) ~ 4 月 9 日 (日) * 「鷹野小よいこの一日」をご参照ください。

★緊急な連絡やコロナ感染陽性の場合は、学校にお知らせください。

ブックマスターおすすめの本



「世界の不思議、なぜ? どうしてですか?」 6 年 2 組 飯箸 真美さん
 みなさん、大統領と首相の違いって分かりますか。この本は、こんな世界の身近な不思議がのっています。ぜひ、読んでみてください。



挑戦！2月の鷹野っ子のあしあと



たかの花子

2月3日（金）3年生出前授業～昔の道具体



3年生が社会科の学習で、昔の道具体験を行いました。埼玉県立博物館の方から、昔の生活に必要な道具について説明を受け、それぞれの道具を実際に体験してみました。現代とは違う道具に、驚きを感じていましたが、これらの道具が昔から生活に必要な道具であったことを学ぶことができました。

2月10日（金）KDDI スマホ教室・3～6年



3年生～6年生がオンラインでスマホ教室に参加しました。KDDIの方から正しいスマホの使い方を学びました。

2月14日（火）プレゼンテーションコンテ



5年生の内田一華さん・斉藤空澄さん・篠田暖翔さんが「わたしたちにできる防災」について堂々と発表してきました。

2月15日（水）クラブ体験・3年



3年生がクラブ体験を行いました。この日は6年生が中学校の説明会があったため、5年生が中心となり、各クラブの活動を丁寧に教えてくれました。3年生のそれぞれのクラブ体験を楽しんでいました。

2月21日（火）音楽集会・1年



歌も鍵盤ハーモニカの演奏も上手にできました。

学校評価 の公表

「学校自己評価」は本校職員による評価、「学校関係者評価」は学校評議員及 PTA 役員で構成する学校関係者による評価です。数値は 4 点満点中の得点です。

令和4年度 学校評価 三郷市立鷹野小学校

評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.38	3.10	・学校は児童・家庭・地域の実情を把握し、夢をはぐくみ、子どものよさを伸ばす学校を目指し、日々教育活動を行っている。 ・コロナ禍において、家庭や地域と連携を取るのが難しい状況ではあるが、これまでの実情を踏まえ実践していく。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.19		・教科・領域等の主任が部会を計画し、共通理解のもとすすめている。PDCAサイクルを確実に実践するためにも改善策を講じ、実施後の反省を次年度に生かすようにしていきたい。 ・教科・領域の分掌は主任を中心に役割分担し実施している。働き方考え勤務時間内で運営や作業準備ができるようにしていきたい。
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.23		・課題研修の国語と読書活動をリンクさせ、授業の中で並行読書や図書館司書の活用を図った。 ・恵まれた環境にある中、環境に目を向け、自然大切にできる児童の育成をめざし、栽培活動や鷹野の森の活用、体験学習に取り組んだ。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.15	3.30	・「夢をはぐくむ教育」の推進に当たり、今年度は校長が児童・教職員に「挑戦の年」という目標を掲げ、取り組んできた。達成可能な目標を掲げ、達成する喜びを味わわせる機会がもてたことは良かった。 ・コロナ禍にあり、実践できない活動もあったが、工夫改善し、少しずつ実施することができた。
	資質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.62		・倫理確立委員会を実施した。教職員一人一人が自分事として捉えられるよう、毎月学年輪番で研修を行った。また、不祥事防止強化期間には、県の資料を用いて短時間の研修も行った。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.23		・学年や学年で教材研究を行い、事前授業、研究授業において一人一授業を行った。 ・実践の効果を全教員で共有し次の研修に生かせることと。また、効果のある実践についてももっと研修を深める必要がある。 ・指導力を高めるために、教材研究の時間の確保が必要で。学年で教材づくり等していきたい。
授業等の状況	学力向上	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.20		・教員一人一人の授業づくりが大切。1時間でも何を学ばせるのかねらいを明確にし授業展開をする。 ・主体的に学ばせるための仕掛けを考え導入を工夫したり、自力解決の時間を確保したりする。この考えを全体で共有し、学んだことの振り返りまで1時間で行うようにし、授業改善を図る。 ・対話については、一方通行の発言になってしまっていることがある。より深い学びにつながる話し合いができるよう工夫改善していく。
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.24		・たかのタイム、放課後マイペースの時間を活用し基礎基本の定着を図った。 ・全国や県の学力学習調査の結果を分析し、各学年の課題を把握し、授業や家庭学習で習熟を図った。
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.36		・毎学期、「授業の心得」確認週間を設定し、児童とともに目標を設定し指導した。 ・「授業の心得」のチェックシートを活用し自学級や学校の実態を把握したが、学校全体の課題を設定し取り組むことはできなかった。学校の課題を明確にし、学校として同一調で指導していく。
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.36	3.30	・おおむね落ち着いた学習に取り組んでいる。 ・始業前の学習環境を整え、授業を開始することを共通理解し取り組んだ。 ・「聞く・話す・書く」の学習活動においてメリハリのある授業展開を図るようし、集中して学習できるよう今後も継続していく。
	読書のまち三郷	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.50	3.70	・図書館司書と学校図書館主任が連携し、図書館の環境整備や本の廃棄、蔵書の計画を立て、確実な図書館経営に当たった。 ・貸出冊数も年間一人100冊の目標に取り組み、全校で40%達成している。 ・「三郷おすすめの本20冊」読書者も前期達成者が66名となっている。
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.35	3.20	・たかのタイムに読書を位置づけ、10分間読書に取り組んだ。読書の時間は集中して読むことができた。 ・読書月間、読書ワークでは、家族郵便、読書ビンゴ・読み聞かせをはじめ、児童が読書に親しむ機会を設けた。 ・授業においても、調べ学習等で図書を利用し学習を進めた。 ・貸出数においては、各学級の差がみられる。担任が意図的に図書館に足を運ぶ機会を設定し取り組んでいる。
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.15		・栄養教諭と給食主任で連携し、栄養教諭による食育授業を行った。また、定期的に栄養教諭が給食時間に学級を訪問し、給食の様子を参観した。 ・朝食を食べずに登校している児童が増えている。コロナ禍において給食の残菜も増えてきている。午前中、体調不良を訴える児童も見られるため、実態把握をきちんと行い、学級指導の充実を図る必要がある。 ・給食日より給食委員会の活動を通して、食に対する関心を高められるようにしていく。
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.38	3.20	・短なわや陸上競技において、それぞれの行事にむけて、校庭で練習する児童の姿が多く見られた。 ・コロナ禍で体育の授業の制限があったため、児童の体力低下が心配される。業間時間に「元気タイム」を設け、3学年ずつラジオ体操、短縄・長縄跳び、マラソン等に取り組む体力向上に取り組んだ。また、体力アップ教室を開き児童の体力向上に取り組んだ。 ・外遊びをする児童が昨年よりは増えてきている。担任自ら児童とともに遊ぶことが一因となっている。
	考えを磨く道徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.13		・授業参観等で道徳の授業を展開する学級もあったが、学校全体で位置づけることができなかった。 ・命の大切さや地域交流については、広く地域に発信できるようにしていきたい。
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.04		・全教育活動の中で道徳性を養うために、道徳の授業だけでなく全体計画の見直しを進める。 ・道徳コーナーの活用を設置し活用を図る。 ・道徳の授業で学んだことが実践で生かされているかを見届け、善い行い等について、学校で称賛できる機会を与えていく。
指導・管理の状況	礼儀正しい児童・生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.23		・児童に対して「～さん」と呼ぶことを、さらに徹底していく。 ・全体的に見れば、児童に対して範を示すことができない教師はいないが、言葉遣いや時間を守るという点においては、改善の必要がある。
		18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.27	3.00	・あいさつ運動は、とても良い活動であった。学校全体で取り組める機会を増やしていきたい。 ・校内でのあいさつと地域でのあいさつに差があった。地域でも積極的に挨拶できる児童を育成したい。
		19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.15		・教職員自ら丁寧な言葉遣いを示し、言葉遣いが悪くならないように注意していく。 ・しっかり指導しようとするあまり、強すぎる言葉遣いをすることがないように気を付けていく。 ・場に応じた指導については、言葉を選び活用できるよう指導していく。
	生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.08		・児童や家庭の様子を把握し、ケース会議など個別の対策を考えることができた。 ・生徒指導・教育相談部会を毎月開き、児童の様子について情報交換を行っている。報告だけでなくどうしてしま対策等を講じることができていない。課題を明らかにし策を講じていく。 ・学校全体で共通理解を図り、事例研修を含め教職員が協力し合う体制ができると良い。
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.32		・長欠、不登校児童や生徒指導上の問題に対しては、保護者と連絡を取りながら、関係機関も含め組織的に対応できた。 ・担任の負担を軽減するために、管理職や養護教諭等も児童や家庭支援にあたった。
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.32	3.11	・いじめの認知については、教職員の意識を高めるために研修の機会を設けていく。 ・「報告・連絡・相談」を確実なものにし、児童双方の聞き取りを丁寧に行い早期に対応していく。対応は組織で行う。
	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.32		・コロナ感染症対応が情勢により変化し、その都度、学校の対応を考えなければならなかった。マニュアル化は難しいと感じた。 ・それぞれマニュアルはあるが、とっさの時に手にできるように、各教室への掲示状況を確認する必要がある。
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.27	3.30	・毎月安全点検を実施し、修繕が必要な箇所については、早期に修繕依頼をし対応した。 ・避難訓練を計画的に実施し、避難経路、避難行動を確認した。 ・今年度は洪水が起こった時を想定した避難訓練も行った。
	教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.12	3.20	・担任が各清掃場所を巡回し指導している。指導が行き届き、児童は一生懸命に清掃活動に取り組んでいる。 ・特別教室等に、学年の荷物や児童の作品が置かれたままになっていることが多いので、定期的に整理する必要がある。児童の安全を確保する意味からも、教室や廊下等の整理整頓に努める。
		26	学校は、教職員が児童生徒と向き合うため、働き方改革を進めている。	3.31		・登校時刻の変更、登校指導、会議等のペーパーレス化を図り、教職員の負担軽減を行った。今後も働き方については、「学校が行うべきこと」を主軸に改革を進めていく。 ・働き方を進めているものの、教員の教材研究や児童と接する時間の確保はまだ難しい。
家庭・地域との連携状況	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.52	3.70	・学校行事、学年行事等をホームページでタイムリーに発信できた。学校だよりでも情報提供できた。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.20	3.00	・コロナ禍で関わりをもつ場面は少なかった。 ・「親の学習」は、就学する保護者向けに行うことができた。今後、コロナ感染症が落ち着いた場合は機会を増やしていきたい。 ・制限された条件の中でも連携できる取組を実施していきたい。 ・学校応援団の確保が難しく、学校との連携が限られたものになってしまっている。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.16	3.20	・感染症拡大防止の観点から、積極的な活動が難しかった。 ・運動会や持久走大会、アルミ缶回収等PTAの方々に協力していただき実施することができた。 ・PTAの活動や地域活動への児童参加が難しいが、地域で子どもを育てているよう、連携し学校教育を進めていく。

★マークが付いている評価項目については、必ず学校関係者評価を実施する。